

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102769		
法人名	有限会社美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい矢野		
所在地	〒736-0085 広島市安芸区矢野西5丁目18-30 (電話) 082-889-6400		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102769-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年3月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>6人定員のホームです。公園や神社、学校や商店が近く、散歩や買い物によくできています。ホームの隣には、畑があり野菜や花を入居者様と一緒に作っています。家庭生活を念頭に入居者様お一人お一人の意志を尊重しながら、安心安全な生活が送れるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>定員が6名という少人数の民家改造型の事業所である。各居室も画一でなく、家庭の自分の部屋の雰囲気がある。周りの住宅とも一体化して、静かな環境に位置している。 職員は利用者一人ひとりに、かゆいところに手が届く支援を、また一人ひとりの思いを実現できる支援を目指している。介護計画書の作成にセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメントの方法)が完全に実施されている。 法人「美泉」の全事業所(グループホーム、デイサービスセンター等)の合同の行事が(クリスマス会、寿を祝う会、お花見そして1泊2日・2泊3日の旅行等)全職員が実行委員会に参加して計画実行されており、利用者やご家族間の繋がりに貢献し、楽しみになっている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	美泉設立時からの理念があり、毎朝申し送り時に唱和している。理念を念頭に日々のケアに取り組んでいる。	法人「美泉」の理念と理念に沿った事業所独自の年間目標を、朝の申し送り時に唱和をして、日々のケアに活かしている。その目標は、法人の新年互礼会で各事業所が職員全員で考えて決めている。そしてその目標は、模造紙に書いて、発表し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の町内会に入っており、総会等に出席している。町内会行事にも入居者様と参加し交流に努めている。	町内会に入っていて、集まりには管理者が参加している。1年に2回町内会で行われる川の清掃に参加している。2か月に1回の公園清掃にも、職員が参加し、季節によっては、利用者も参加している。散歩中にも声掛けをしてもらっている。事業所の側に畑もあり、関心を持っての声掛けもしてもらえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	講演会などは行ってないが散歩や買い物、畑の作業中等に地域の方々から、相談や質問を受ける事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の会議ではホームの状況、取組み等を話している。地域からは行事や町内会からの要望を教えて頂き、ここでの意見を日々の生活に生かせるよう取り組んでいる。	2か月に1回の開催を目標に開催している。利用者と家族、町内会や老人クラブからも参加されている。町内会の行事の情報もあり、神社のお祭りに参加している。参加の安全にも配慮してもらっている。インフルエンザの予防や、畑の事についての意見を頂き、ケアや日常生活に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	集団指導や研修会を通じて連絡・報告し、協力関係を築いている。生活保護の受給者の為に生活課と密に連絡をとっている	集団指導は参加人員の制限もあり法人が対応し管理者会議で各事業所へ伝えている。困った事等は法人へ相談することが多く、事業所から直接に市への相談は無い。運営推進会議の開催曜日を平日にして、地域包括支援センターからの参加をお願いして、連携を深めていきたい。生活課とは密に連絡をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束排除宣言」を掲げ職員同士日々意識し、身体拘束をしないケアに努めている。勉強会や会議で実践と意識の確認を行っている。</p>	<p>法人として、「身体拘束の排除の理念及び方針」があり、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠はなしで、見守りの徹底で予防に努めている。現在はないが、頻繁に出て行かれることが発生したときは、セコムの徘徊探知機を利用する場合もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>「高齢者虐待防止法」等の市の研修会には必ず参加し、事業所に持ち帰り徹底に勤めている。初期研修でも学びお互い注意し実践している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内外の研修会で学んでいる。必要と思われる場合は、制度が利用出来るように上司に報告、相談し支援につなげている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書や契約書、同意書を用い丁寧に説明し質問を受け納得して頂いた上で、契約を行っている。契約締結後であっても疑問点等あればいつでも受付けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置を行い、無記名で要望や意見を投書して頂いている。また、面会時にも意見要望等をお尋ねし、改善すべき事は改善し日々取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や面会時に意見要望を聞いている。利用者の意見は、午後のゆっくりした時間帯のお喋りの中で聞き取るようにしている。事業所ではあまり意見が出ないが、法人が全事業所で行う大きな行事（クリスマス会・寿を祝う会・泊りの旅行）には家族も参加されるので、意見を伺う良い機会にもなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホームでのミーティングや申し送り時に、職員から意見等を聞き、管理者会議で話し合い日々の運営に反映させている。	ミーティングや申し送り時に、職員からの意見を聞くようにしている。随時でも何かあれば話を聞くようにしている。管理者で答えられない内容については、月に2回開催される管理者会議で報告し、指示を仰いでいる。緊急なことは随時法人に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回の申告書により、各職員の意向を把握し研修や勉強会参加の希望があれば参加できるよう勤務を調整している。また、家庭の事情等で勤務条件を考慮する等行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外の研修会に参加できるよう勤務の調整を行っている。日々を勉強の場としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム協会の総会や大会に出席し、意見交換を行い現場に持ち帰り実践に生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時、ご本人やご家族より心配ごとや不安などお話を伺い、全職員で共有し、ご本人が安心して過ごせるよう心配りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の訪問や面接でご家族からお話を伺い、不安や心配がある場合はいつでも相談を受けている。入居後も面会時等にご様子をお伝えしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>面接や訪問時に本人や家族からの話を伺い支援を見極め、上司や他のサービス機関と連携し対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>料理や畑仕事などを一緒に行いお互いねぎらいや感謝の言葉をかけあっている。「日々共に生活している」という気持ちで取り組んでいる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>お誕生会や寿を祝う会などの行事等には家族と共に祝いしている。共に本人を支えているとの考えを伝え協力や相談を持ちかけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの美容院や家族との墓参りなど継続できるよう支援している。</p>	<p>入居の際に馴染みの人や場所について聞き取りをしている。馴染みの美容院への同行や墓参りやお寺への外出支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考慮し、食事の席決めや作業時のグループ分けを行っている。ソファの位置にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他のサービスとも連携しながら必要に応じて電話相談を受けこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活や面会時に本人や家族からの思いや希望を聞きプランに取り入れている。聞き取りが困難な場合は本人の立場に立ち検討している。	家族の思いは面会時や遠方の方には電話で事業所からの報告の時に、聞き取るようにしている。利用者からは、日々の生活の中での言動の気付きを生活日誌に記録して思いや意向を職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の訪問時や入居時に情報収集を行っている。入居後も日々の生活や会話からも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康チェック、排便や食事摂取状況、日々の生活の様子等を把握し記録している。この記録をケアプランに生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントより、課題を引き出し、本人、家族、職員と話し合いプランを立案、作成している。</p>	<p>毎日の生活日誌の記録と利用者・家族の要望を基に、4か月に1回センター方式でプランの見直しを行っている。プランは利用者・家族の承認を得て作成され、ケアが実施されている。もちろん利用者に状態の変化があればプランの見直しも随時行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々の生活日誌に気付きも含めて具体的に細かく記録するよう努めている。日々のケアプラン作成時に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>要望時には、他事業所とも連携し必要とされる支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内清掃や祭り等に参加し生活している実感を一緒に感じ、楽しんでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時希望される、かかりつけ医があればそのまま継続している。ホームの家庭医は週1回の往診があり、病状により必要に応じて他病院を家族の納得の上紹介して頂いている。</p>	<p>入居時に希望されるかかりつけ医は、そのまま継続して、受診の際は同行している。事業所の協力病院からは金曜日に往診してもらっている。投薬は提携薬局から1日朝夕に分け、利用者の名前を記入した薬袋で纏めたケースが届けられ投薬のまちがいは起きていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の関わりの中で気付き等を看護師に伝え相談している。体調変化に対し早めの対応ができるよう努力している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には一日1回面会に行き、様子を伺い洗濯物を持ち帰る等家族や本人に負担がかからないように配慮している。医師や連携室と情報交換し早期退院と今後のよい関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に、重度化した場合や終末期についてのホームでの看取りを方針としている事を説明し同意を得ている。本人、家族、医師、職員で充分話し合い方針を共有し支援している。</p>	<p>法人の運営方針に、「人生の終末期における、看護・介護に誠心誠意尽くします」とあるように、最初の事業所開設以来多くの方々の看取りを行ってきている。入居の際ご利用者ご家族に説明をし同意を得ている。重度化した時、再度医師も交えて、出来ること、出来ないことを話し合い、決まった方針に沿って支援をしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>社内研修を行い、マニュアルも作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回訓練を行い、避難方法を確認している。地域との協力体制は書面ではないが町内会の総会等でお願している。</p>	<p>民家改造の事業所で定員も6名とこじんまりしたグループホームである。消防への緊急連絡設備やスプリンクラーも設置できている。2階の避難方法は消防からも指導を頂いている。法人内でも全職員の緊急連絡網があり、駆け付ける体制が取れている。地域の方には利用者の避難先など具体的な支援のお願いをしていく。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉掛けを心掛けている。プライバシーには充分配慮し職員同士気を付けながら対応している。	法人の運営方針に、「一人ひとりの意思や能力、人生・人格を尊重したサービスを提供することを目指します」と、あることを受け事業所でも丁寧な言葉掛けを心掛けている。プライバシーの配慮として、面会簿はノートではなく、面会者に対して1枚用意している。入居時には、お顔や名前を外部へ出していいかの確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で選択し自分で決める事ができる場面をつくっている。作業しながら、また一緒にお茶を飲みながら同じ目線に立ち気持ちを聞き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れの中で、健康的な生活が送れるよう、一人ひとりのペースに合わせて共に行動し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時や行事に合わせて一緒に服を選びお化粧をしたりスカーフをしたり、おしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立で好きな物を取り入れたり、皮むきや味付け、盛り付け等一人ひとり出来る範囲で一緒に行っている。	入居時に利用者の好き嫌いについては、聞き取りをしている。献立は1週間ごとにたてているが、当日の買物で、利用者の希望があり、変更することもある。食事は検査されており、記録されている。誕生日などの行事食は当人の希望で外食することもある。法人では食事アンケートを半年～1年に1回実施し、食事を楽しむ支援に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	生活歴や体重、体型から摂取量を把握し、水分は1日1000～1500を摂取目標としている。介護記録に細かく摂取状況を記録し体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。同時に口腔内の状態観察も行っている。自力で出来る方は見守りをし時々さりげなく口腔内の状態を観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め適時にトイレ誘導を行っている。また、プライバシーに配慮しながらトイレへの声かけを行っている。	生活日誌に排泄パターンの記録欄があり、記録されている。職員は利用者ごとの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。ゆっくりではあるが成果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防に良いとされる繊維を食事に取り入れ、牛乳や水分を多めに摂取できる工夫をしている。体操や散歩に出かけ排便を促している。それでも困難な場合は家庭医に相談し下剤を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入浴出来るようお風呂を沸かしている。最低でも週3回は入浴して頂いている。体調不良時には清拭を行い保清に努めている。季節の楽しみとして、しょうぶ湯、ゆず湯なども取り入れている。	現在は4人の利用者ということもあり、お風呂は月水金に準備している。温泉風にしたり季節のゆず湯にしたり、ゆっくりお風呂を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の習慣に合わせ食後居室で休まれたり、ソファでくつろがれたりしている。日中は散歩に出かけ心地よい疲労感で夜間安眠できるよう働きかけている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの薬の説明書を読んで薬について理解し、臨時薬が処方された場合には、申し送りノートと医療欄に記録し職員全員が把握に努めている。症状の変化にも注意している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>料理が得意な方には一緒に台所に立ってもらっている。ドライブや外食にも出かけている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>買い物や散歩、美容院に同行している。本人の希望があれば家族とも相談し協力しながら出かけられるようにしている。</p>	<p>買物には毎日、お天気が良ければ散歩も毎日出かけている。馴染みの美容室とか散髪にも出かけている。外食を月に1回は実施してほしいという法人の方針があり事業所でも努力している。法人全体の1泊2日や2泊3日の旅行が旅行委員会で計画され実施されている。利用者家族も多く参加され事業所を越えて家族間の交流が出来る。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>旅行や毎日の買い物時、一人ひとりの力に応じて支払いが出来る方は支払をして頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話機の子機を使用しプライバシーに配慮している。手紙をいつでも書けるように準備している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>部屋が明るすぎないようまた、暗すぎないようカーテンや蛍光灯で調整している。冬の早朝には全部のエアコンを作動させホーム全体を暖める等工夫している。リビングや玄関には季節に合った花や皆で作った壁画を飾っている。</p>	<p>角地の民家で一方は畑と駐車場もう一方だけが平屋の集会所で、居間や各居室は日当たりもよく明るい。景観も圧迫感がない。利用者3人が（1人は動けない状態）リビングで思い思いに過ごされているのを職員が支援している様子は、家族のような雰囲気がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂とリビングを分けている。リビングのソファも2ヶ所にし独りになれる共用空間を作っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホームとして家具は希望されれば使ってもらっているが、入居時自宅で使用されていた馴染みの布団や家具を持参して頂き安心した生活が送れるように支援している。</p>	<p>民家改造なので、各居室はふすまや押入れなど、家を感じさせ、落ち着いている。自宅で使用されていた筆筒やサイドボードを持参されている利用者や仏壇を持ってこられている利用者など自宅と同じような生活が送れるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室や洗面所、トイレにはネームプレートをとりつけている。タンスにはシールを貼り一目でわかる工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい矢野

作成日 平成26年4月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の緊急避難をスムーズに行う	1. 利用者の安全を守る	①夜間の災害に備えて避難訓練を実施(2~3回/年) ②実際に夜間、職員に招集をかける	1年
2			2. 町内会と災害協定の締結	①運営推進会議を通して町内会にお願いする。 ②消防署の方に会議に参加して頂き協力を得る	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。